

柴田町内での地域支え合い活動のごく一部を紹介します

住み慣れた場所で、「元気で人生100年時代」を目指すために、日常生活の中で、困ったときのお互い様の支え合いとして区内での生活支援活動があります。10年先、20年先を見据えて参考にしてみてください。

船岡中学校区(3区:防犯・除雪・見守り隊)

平成30年度4月から活動を開始しました。
除雪隊は、現在8名体制で、2月・3月の降雪時に積雪15センチ以上の場合、区内消火栓周り一人暮らし世帯周りの除雪出動します。

冬期以外は、自主防災部とタイアップし、見守り隊活動を実施しています。

(渡邊 福男 区長)



槻木中学校区(17B区:生垣お助け隊)

17B区は、槻木サニータウン・三ヶ屋敷地区として、昭和53年ころのニュータウンとして入居が始まった地域です。

地域住民も高齢化になり、区内での助け合いの声が住民から出たので平成25年度「地域お助け隊」を結成し、ちょっとした「お困りごと」を顔の見える関係で解決してきました。

地震対策として生垣の多い地区なので、歩道や近隣にはみ出た生垣を自己解決出来ない世帯について、班長から区長へ課題提案。その後、区内で検討し4人程度のチーム編成し、作業にとりかかります。(草刈り機や運搬経費・処分代は自己負担)

結成当初は、「ちょっとしたお困りごと」の解決で始まりましたが、現在に至っています。

(菅野 敏明 区長)



船迫中学校区(29C区:いきいき長生き大作戦)

人生100年時代と言われております。できるだけ元気で長生きし、充実した人生をおくりたいとおもっています。

29C区内で開業されている高沢内科医院長 高沢磨先生と仙台大学大学院教授 高崎義輝氏にご指導・ご協力をいただき、自らが健康づくりや介護予防に取り組むことにより、目標を達成できるよう「いきいき長生き大作戦」を開始しました。

9月8日(金)船迫生涯学習センターを会場に、できることから始めることとして、両氏を講師にお招きして、地区民30名参加のもと、講演会を開催いたしました。

(高田 三郎 区長)



「地域情報の取材にお伺いしますので、お気軽に声をかけてください。
住民のみなさんおひとりおひとりが柴田の「お宝」です。」



生活支援体制整備事業広報誌
「みんなの広場」

第6号発行日 令和6年3月31日

発行・編集 社会福祉法人柴田町社会福祉協議会
〒989-1606 柴田町船岡字中島68(柴田町地域福祉センター)
TEL:0224-58-1771 / FAX:0224-58-1070
生活支援コーディネーター室 TEL:0224-87-7884

令和6年3月号

Vol.06



みんなの広場

生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)通信



生活支援コーディネーターが地域に出向いて「通いの場」や生活支援情報等の地域資源を取材させていただきました。ご協力ありがとうございました。

「住み慣れた地域で、元気に楽しく暮らし続けられるための社会参加」や「困った時は、お互いに地域で支え合える生活支援」を紹介します。

地域食堂・こども食堂

特集

地域の話
「生活支援情報」

地域の人々が、気軽に利用できる地域食堂・こども食堂が町内では3地区で開催されています。多世代全ての人にとってあたたかい居場所となるようSCもこの活動を応援しています。

「土手内食堂」(9A区)

代表:高橋 みつ子さん

令和元年に第1回を開催。その後「コロナ禍」により4年活動休止でした。令和5年11月23日(木)午前11時に4年ぶりの再会となりました。「食べる楽しみ」「会話の楽しみ」「顔の見える支援」を目的として、地域の親睦と融和を図りたいと代表の高橋みつさんは話してくれました。来客数50名(子ども9名、大人41名)。今回初めて、図書館の出前講座「よみきかせ」をお願いしました。おとなも子どもも楽しめるたのしい時間でした。レクリエーショングッズコーナーでは、子供たちのにぎやかな声と笑顔が印象的でした。第3回開催は3月31日です。(佐藤 力区長)



↑図書館出前講座「よみきかせ」の様子

場所:9A区集会所 開催日:不定期
参加費:大人300円/子ども100円(小学生まで)
連絡先:54-3722(高橋)

「さくら食堂」(9B区)

代表:菅野 京子さん

「心を込めた手作りの食事は食べた子どもの心が満たされる」…菅野京子さんのそんな思いに共感した10人のボランティアさんと平成28年6月から始まった「さくら食堂」。コロナで中断の間、食材の個別支援は継続。ボランティアさんも交代があり、現在は11人が食を支えています。コロナ5類以降は、高齢者と子ども連れが時間を棲み分けし、学生ボランティアが子どもの遊び相手になってくれています。ご主人が作る無農薬の野菜と素材を生かし工夫を凝らしたおかずは人気で、ロコモで広がり、リピーターも増えています。12月のメニューは「鶏むね肉のチーズパン粉焼き」スポーツ飲料に付け込んで柔らかくする裏ワザは皆さんに大好評でした。(菅野 則明区長)



場所:9B区集会所
開催日:毎月第4金曜日/15時~(茶話会)
17時~(夕食会)
参加費:大人300円(茶話会のみ100円)
子ども100円(幼児無料)
連絡先:080-2810-3418

「しんえいこどもカフェ」(11C区)

代表:児玉 芳江さん

コロナが5類になり、第1回は11月12日に始まりました。立ち上げのきっかけは、地区内のナルミキッチンで、ママたちが集まって開催している「夜カフェ」で、「子どもたちが集まって遊んだり、宿題したり、ご飯を食べる子ども食堂をしたいね」という声があり、参加したママたちから「協力するよ」「チラシ作ります!」「仙台大学の学生さんにも声をかけてみます」等協力の輪がひろがり、第1回を開くことができました。12月からは毎月第2土曜日カレーランチに限定し定期的に開催しています。民生委員さんの協力もあり、お子さんだけでなく、地域の皆さんが来てくれています。回をかさねることに参加者が増えてうれしいです。今後は、地域みんなが気軽に来れて「笑顔になれるカフェ」にしたいです。(水戸 幹雄区長)



場所:新栄集会所
開催日:毎月第2土曜日/10時~14時(ごはんは11時30分~13時)
参加費:大人300円(高校生以上)/子ども100円(未就学児無料)
連絡先:090-1370-5321(児玉)

「柴田町生活支援・介護予防体制協議体」

協議体とは、生活支援コーディネーターと地域でさまざまな活動をしている人同士で、情報の共有や連携の強化を図ることで、地域づくりについて話し合うあつまりです。地域に支え合いの輪を広げ、地域のみなさんが安心して暮らし続けられるよう今後も活動していきます。

協議体委員長 柴田町社会福祉協議会長 武田 則男さん

構成団体の特性もあり、全体で集まることを控えてきましたが、昨年11月やっと一堂に会し現状や課題について意見交換を行うことができました。互いの具体的な現状について理解が深まり、これから連携し地域の支援体制の充実に向け新たな一歩を踏み出せたように感じています。

協議体メンバー

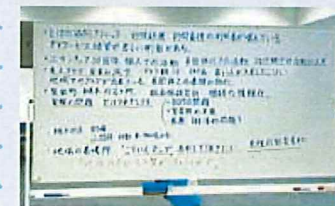
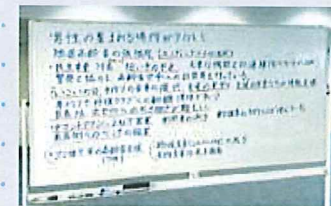
副委員長:木島 基子さん(柴田町民生委員児童委員協議会長)
委員:関 隆さん(柴田町区長会長)・小嶋 誠さん(柴田町商工会課長)・荒井 健作さん(柴田町シルバー人材センター主査)・星 由美子さん(みやぎ県南医療生活協同組合理事)・小玉 敏さん(柴田町ボランティア・NPO活動連絡会長)・大槻 尚之さん(柴田町老人クラブ連合会長)・相原 美由紀さん(柴田町地域包括支援センター管理者)・石上 誠さん(槻木地域包括支援センター管理者)・加茂 三弥さん(柴田町社会福祉協議会次長)・大庭 三余子さん(柴田町社会福祉協議会生活支援コーディネーター)

第1回(11月2日)

コロナ5類以降、初の会議。各委員が各団体の現状の意見交換会となりました。

各委員とも、「構成メンバー不足や担い手不足」等、共通課題も多く、今後団体間での連携の機会を増やすことで、解決の糸口が得られ、「地域課題」という点を、連携という線をつなぎ、地域づくりという輪で結ぶ。言葉だけではなく、本当の意味での「関係性」や「つながり」をつくりたいと各委員が考えさせられる会議でした。

意見交換会を踏まえて「生活支援」の視点で各委員が話し合い「安心して暮らし続けられる地域をつくるには」のワークショップを開催するなど、次年度も継続してより具体化・可視化にむけて展開します。



協議体等への問合せ先 / 柴田町福祉課長寿介護班 Tel. 0224-55-2159